発行日：
2016年3月18日

明治学院大学心理学部　白金心理学会報

さいころ

第8号

2015–2016

白金心理学会イベント

- 2015年5月20日
  在学生部会SC第16回キャリア支援シリーズ「第2回法務技官業務説明会」開催
- 2015年6月14日
  白金心理学会第8回大会：総会、2014年度奨励費獲得者研究成果報告、2015年度奨励・活動費獲得者プレゼンテーション、シンポジウム「今、学校で何が―小学校教員が語る教育現場」、懇親会　開催
- 2015年6月24日
  在学生部会SC第17回キャリア支援シリーズ「大学院生による院進学説明会2015」開催
- 2015年10月21日
  在学生部会SC第18回キャリア支援シリーズ「第3回法務技官業務説明会」開催
- 2015年12月1日、3日
  在学生部会SC第19回キャリア支援シリーズ「院進学イベント～院生とお話しよう～」開催

目次：

会報第8号発行に寄せて　1
白金心理学会第9回大会のお知らせ　1
在学生部会SC活動報告　2
さいころトピック　説明バイアスとその社会的影響　3
新任教員のご紹介　4
松村先生にインタビュー　5
白金心理学会ホームページのご紹介　6
事務局よりお知らせ　6

会報第8号発行に寄せて

花田　安弘　学会長（心理学部長）

皆様、こんにちは。さいころ第８号をお届けします。昨年２０１５年は公認心理師法が９月３日に衆議院、同月９日に参議院で可決成立し、心理学の特に臨床系にとって非常に重要な年となりました。これまでも何度も今国会で成立するだろうとの予測がなされたものの、なかなか実現されませんでしたが、漸く成立の運びとなったことは、心理学関係者にとり大変喜ばしいことと思います。国家資格化されたことにより、今後病院や学校などでの心理職の需要が高まることが期待できると思われます。

受験資格に必要なカリキュラムは今年前半くらいには決まる見込みのようですが、心理学科としては当然そのカリキュラムに対応し、卒業生が大学院に進学して受験資格が得られるように考えていく予定です。公認心理師の資格取得者が出るのは６年後のことになるのか、詳しくは承知しておりませんが、今後はこれまでの臨床心理士や臨床発達心理士などの資格に代わり、公認心理師が重要な資格として求められるようになるでしょう。臨床心理士などのこれまでの資格の有資格者に自動的に公認心理師の資格を与えるということは、多分ないのでしょうから、再受験が必要になるのでしょう。卒業生の皆様で臨床分野で活躍されておられる方々の再受験に向けての対応も今後の検討課題になってくるのかもしれません。

花田　安弘先生

公認心理師への対応が、今後数年間全国の大学の心理学科の大きな課題となっていくと思われます。教育発達学科では教員採用試験合格率を上げていくことが重要な課題であり、同様に心理学科の臨床分野では公認心理師の合格率が、他大と比較される重要な指標となるでしょう。これからの心理学部のますますの発展のために、教職員一同努力していきたいと思います。

白金心理学会第9回大会のお知らせ

出井　雄二先生（教育発達学科准教授）

みなさん、こんにちは。寒さの厳しい日が続きましたが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、白金心理学会第９回大会が６月２５日（土）に開催されることになりました。大会プログラムの詳細が決まりましたのでお知らせいたします。今回は大会テーマを「心理学研究の変遷」として様々な企画を考えました。

まず、総会では白金心理学会のさまざまな活動と計画についてご報告いたします。

続いて、第５回大会より始めた研究奨励費獲得者の研究成果報告と今年度の獲得者による研究計画のポスター発表があります。これは白金心理学会として研究を奨励する目的で研究奨励費（１件5万円）・活動奨励費（１件２万円）を交付するものです。2015年度からは、枠を広げ、より多くの学生・院生の研究を奨励しています。

次に、最近の心理学部や学生の最新の動向をみなさんに紹介します。今回は学内外で表彰を受けた学生の紹介を予定しております。

そして、今大会のメイン企画として、「心理学研究の変遷」というテーマでパネルディスカッションを行います。心理学部開設時に教員として在籍していた道又先生、学生だった大久保先生をお迎えし、お二人から当時から現在までに心理学の研究内容・方法・対象がどう変わっていったのかをお話しいただきながら、心理学が現代社会にどう貢献できるのかを考える機会にしたいと思います。

昨年の大会のようす

また、これまで好評でしたティー・ブレイクの時間も設けました。話題提供者への質問はもとより、お世話になった先生に近況を報告するなど、有意義にお使いいただければと思います。

もちろん夕方からは例年と同じく懇親会も予定しておりますので、こちらも是非ご出席ください。同級生、先輩後輩、教員との親睦を深めていただければと思います。

多くの方の参加をお待ちしています。

第16回キャリア支援シリーズ「第2回法務技官業務説明会」
法務技官の仕事の内容、施設の紹介、休憩時間の過ごし方、受験について、採用についてなどの講演後、質疑応答の時間を設けました。丁寧な説明と興味深い内容に、時間があっという間に過ぎました。

第17回キャリア支援シリーズ「大学院生による院進学説明会2015」
今年は各コースごとの説明は10分程度にまとめ、個別相談に多く時間をとるようにしました。結果、参加者が個人の相談をする時間を長く持つことができて、イベントへの満足度につながったようです。

第18回キャリア支援シリーズ「第3回法務技官業務説明会」
前回の法務技官説明会と同様に、法務技官の1日の仕事の流れ、どんな対象を相手にするのか、また、勤務している施設はどのような所なのか…などについて、パワーポイントを用いて、丁寧に説明していただきました。

第19回キャリア支援シリーズ「院進学イベント～院生とお話しよう～」
開始直後は参加者が少なかったものの、途中から参加者が増え、それにともない会も盛り上がっていきました。全体的に和やかな雰囲気の会となりました。また開催してほしいとの要望も出て、よい雰囲気で幕を閉じました。

在学生部会SC活動報告

（在学生部会SC）

＜大学院ＳＣ＞

私たち大学院生SCは、2015年6月24日(水)に、「院進学イベント」として大学院説明会および個別相談会を開催しました。第1部はSCによるそれぞれのコースについての説明、第2部はM1にスタッフとして参加してもらい、院進学を控えた3・4年生と座談会形式で、それぞれの相談に乗ってもらいました。「大学院ではどのような勉強をするのか」「いつごろから受験勉強をしていたのか」「研究計画はどのように立てたらよいか」などの相談に、M1は自らの経験を踏まえて正直に答えているのが印象的でした。30名を超える学部生に集まっていただき、イベントは当初の予定よりも30分ほど延長する大盛況のうちに終了することができました。イベント後のアンケートの中には、学部生からの声がたくさん書かれていました。特に開催時期について要望がありましたので、来年度に生かしていきたいと思います。

今年度もたくさんのご支援ありがとうございました。

＜3年ＳＣ＞

在学生部会では、新入生の支援を目的として、フレッシャーズ研修とスポーツ交流会を毎年企画しています。

今年度は例年同様、3年生が中心となり、4月3日にフレッシャーズ研修を開催しました。フレッシャーズ研修では大学生活についてのガイダンスをはじめ、クラスごとに分かれてレクリエーションによる新入生同士の交流を行いました。また、クラスアドバイザーの先生方にクラスミーティングを行っていただきました。さらに、ソーシャルスキルトレーニングの一環として、スーツを着用し都ホテルで食事会も行いました。研修終了後には、新入生の抱いている授業や大学生活への疑問や不安に対して、「Chat　Lounge」と名付けた相談の場を設けました。この名称の影響か、例年より多くの新入生が相談に押し寄せ、学年を越えた交流を行うことができました。

＜2年ＳＣ＞

今年度も学科ごとに1年生の春の交流会を戸塚校舎の体育館にて開催しました。

心理学科は6月に心理学科交流会という名のもと開催しました。2年生で考えた借り人競争やドッジボールなどをチーム対抗戦で行い、学科内でまだ話したことのない人とも話せるようなきっかけ作りができました。

教育発達学科は5月にスポーツ交流会という名のもと開催しました。準備をするにあたって1年生の中から有志を募ったところ、20名ほどの協力者を得ることができ、とても心強かったです。当日も「楽しかった！」の声をたくさん聞くことができました。

12月には、1年生が秋のスポーツ交流会を企画し開催しました。

同年12月の初めには、第19回キャリア支援イベント「院進学イベント～院生とお話しよう～」を開催しました。本イベントは、実際に明治学院大学大学院で心理学を専攻する院生の方をお招きし、参加者は直接院生の方と話してさまざまな疑問を解消してもらうもので、予定していた1時間があっという間に過ぎてしまう、非常に内容の濃いものとなりました。

学部の代表として精進して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

SC活動一覧

4月	フレッシャーズ研修（新入生）
5月	スポーツ交流会（教育発達学科1年生）
6月	心理学科交流会（心理学科1年生）
	第17回キャリア支援シリーズ「大学院生による院進学説明会2015」（3･4年生）
12月	秋のスポーツ交流会（1年生）
	第19回キャリア支援シリーズ「院進学イベント～院生とお話しよう～」

さいころトピック

説明バイアスとその社会的影響

宮本　聡介先生（心理学科教授）

ShannonとWeaverいう数学者・科学者が1949年に発表したコミュニケーションモデルは，モデルのシンプルさから心理学，特に社会心理学の分野で，対人コミュニケーションの基礎モデルとして応用された。例えば，説得研究では情報の発信装置(Sender)を説得者，受信装置(Receiver)を被説得者に置きかえ，被説得者が説得に応じるまでの過程の中で，態度変容に影響を及ぼす要因の検討が行われている。ShannonとWeaverのオリジナルモデルでは，発信装置から受信装置に正確に情報を伝えるにはどうしたらよいかという問題設定があった。心理学では，情報が歪まないように伝えるにはどうしたら良いか，被説得者が態度変容に応じるにはどうしたらよいかといった問題設定があった。つまり，このモデルでは，送り手よりも受け手（被説得者）の側に研究の焦点が置かれていた。送り手側も，情報を発信するという行為によって，自分自身に何らかの影響が及ぶ可能性があると考えられるが，そのことを積極的に論じた研究はまだ見たことがない。しかし，幾つかの研究にそのヒントがある。

例えば，教育心理学や認知心理学の分野では，送り手が情報を発信することによって自らに影響が及ぶ現象を，“説明”に着目して検討している。自己説明効果(Chiら, 1989)，共同学習(Webb, 1989)，教え手学習効果(Cohen, Kulik & Kulik, 1982)，相互作用効果(伊藤,滝花, 2009)などの研究では，説明によって説明者本人の理解が深まることが報告されている。自分や他者に向かって説明するという行為を通して，説明対象の理解が深まることが分かっており，教育学的に大変重要な知見と言える。

一方，社会心理学では，“説明”によって説明者自身の知識に歪みが生じることが報告されている。例えば大統領選で二人の候補者のうちどちらが勝利すると思うか問い，その理由を説明させると，説明させなかった者よりも候補者が将来勝つだろうと信じるようになった(Carroll, 1978)。1970年台，LepperやRossといった高名な社会心理学者達が“信念固執効果”という効果を報告した。たとえ誤った信念であっても，一旦植えつけられると，その信念の影響が継続的に残るという効果である。後続の研究では，信念の正当性を実験参加者に説明させると，信念固執効果の影響がさらに強く残ることが報告されている(Anderson, Lepper & Ross, 1980)。優れた他者による説明よりも，自己説明のほうが信念固執に与える影響が大きいという報告もある(Davis, 1997)。

筆者らは，説明を経験することによって，自らが説明した方向に予想や信念が歪む傾向を”説明バイアス”と呼び，そのメカニズムの解明に取り組んでいる。これまでに報告された説明バイアス研究は，ほとんどが将来の予想を従属変数にとっていた。しかし，結果が未知であれば，現在，過去のことであっても同様の効果が生じる。例えば，架空の心理用語の実在性の認知(宮本ら，2015)，事故原因の内的外的帰属(Miyamoto, 2016)などでも説明バイアスが報告されている。

説明バイアスは，教育的な視点から考えると厄介な問題をはらんでいるかもしれない。例えば，教育場面では教育ディベートという手法が知られている。教育ディベートとは，ひとつの論題の下、２チームの話し手が肯定否定の立場に分かれ、自分たちの議論の相手に対する優位性を第三者であるジャッジに理解してもらうことを意図して、論理的に議論をするコミュニケーション活動(日本ディベート学会HPより)である。教育ディベートとは，自分の現在置かれた立場を肯定する考え方を“説明”することであり，説明バイアスの影響が懸念される状況である。討論の中で，偶然割り当てられた立場からの説明・討論が，本人の真の立場とは無関係にバイアスという形で内在化される可能性がある。

教育ディベートでは，途中から自分の論じた立場とは反対の立場に交代して討論が続けられることもあり，両方の立場に触れるので説明バイアスを心配する必要はないと考える者もいるかもしれない。しかし，心理学ではさまざまな形の初頭効果が知られている。これは，最初に接した情報の心理的な影響が後々まで残るというものである。近年の研究では，レジ袋は地球環境に良い・悪いという情報のどちらかに予め接した2者が，その話題についてコミュニケーションをすると，コミュニケーション直後は態度が中立化するが，第3者に情報を伝達する段階で，最初に接した情報の影響が再び現れることが示されている(宮本，2013)。教育ディベートで，最初に肯定・否定のどちらの立場をとるかということが，本人の態度・信念形成に影響を及ぼす可能性がある。そのため，今後は，教育の現場にもフィールドを広げ，説明バイアスの影響を検証してゆきたい。

宮本　聡介先生

参考文献
1. Shannon, C. E. and Weaver, W. (1949). The mathematical theory of communication. Illinois: University of Illinois Press.
2. 宮本聡介･菅さやか･太幡直也（2015). 説明経験と説明の上手さが架空事象の実在性認知に与える影響　明治学院大学心理学紀要　25, 45-57.
3. Miyamoto, S. (2016). Explaining is Believing: Causal Attributions of Accidents and Explanation Bias. The 31th International Congress of Psychology, Yokohama.
4. 宮本聡介（2013). 互いに矛盾する情報のコミュニケーションとその伝達　-初期情報優位性効果の検討-明治学院大学心理学紀要, 23,111-122.

新任教員のご紹介

小野　昌彦先生

渋谷　恵先生

松永　あけみ先生

宮﨑　眞先生

高岡　祥子先生

松田　崇志先生

杉山　雅俊先生

小野昌彦先生　はじめまして、2015年4月に教育発達学科に着任しました小野昌彦です。 不登校問題をライフワークとしています。学校復帰を目指す不登校の方のアセスメント及び支援方法の開発、未支援不登校への対応法、不登校 発現予防方法の開発等の研究を実施してきました。不登校問題解決には、 心理学、教育学、障害科学、福祉といった多様な領域の学び を要請されました。これは、教育発達学科の目指している学びと共通すると感じ、これからの大学での生活をとても楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

渋谷恵先生　2015年４月に教育発達学科に着任しました渋谷恵（しぶやめぐみ）です。専門は比較・国際教育学です。学生時代、アメリカに住む日本人児童のためのキャンプ・カウンセラー、アメリカ現地校でのインターン、タイへの留学などを経て、国や地域によって異なる学びの姿、文化を超えて育つ子どもたちの教育に関心を持ち、研究を始めました。現在はシティズンシップ教育の国際比較、多文化共生教育を中心に研究と実践を行っています。体験と理論の往還を大切にしながら、教育発達学科、特に国際教育コースの充実に努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

松永あけみ先生　2015年4月に教育発達学科に着任致しました松永あけみと申します。専門は保育心理学、幼児教育です。主に、幼稚園や保育所などの集団保育場面において、子どもたちがどのように他児の感情や特性などの内的世界を認知し、仲間関係を形成していくのか、そして、その認知や仲間関係の形成に、保育者はどのような影響をもっているのかについて研究を行っています。仲間関係の形成は、児童期以降生涯に渡って非常に重要な人間関係となります。その始まりが幼児期であり、それを支える教育のあり方について、学生のみなさんと共に、考察していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

宮﨑眞先生　こんにちは。専門は特別支援教育全般ですが、特に重度知的障害児や知的障害のある自閉症児の発達支援法の開発に興味があります。今まで試みたのはディスクリート試行指導、立て遊び・ごっこ遊びによる象徴機能の発達促進、共同行為ルーティンによるコミュニケーション行動の指導、スクリプト及びスクリプトフェイディング手続きによる会話指導、ゲーム場面でのソーシャルスキルトレーニング、その他文字・数の指導や概念学習などです。明治学院大学という大きなチャンスを活かし、更に研究と指導を進めて行ければと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

高岡祥子先生　はじめまして，2015年4月から心理学科に助手として着任しました高岡祥子（たかおか あきこ）です。専門は学習心理学，比較認知科学です。動物の認知能力に興味があり，特に私たちにとって最も身近な動物であるイヌの社会性について研究してきました。授業の補助や，図書館でのISコーナーで，気軽に声をかけてください。明治学院大学の四季折々の美しいキャンパスで仕事ができることを嬉しく思います。これからもよろしくお願いいたします。

松田崇志先生　2015年4月に心理学部の助手として着任いたしました松田崇志（まつだたかし）です。専門は認知心理学，高齢者心理学です。認知機能の中でも記憶に焦点を当て，記憶能力（特に，思い出すことにかかわる能力）が加齢に伴ってどう変化していくかを中心に研究を行ってきました。最近では，老いや高齢者のイメージにも関心を持っています。大学の4年間はかけがえのない貴重な時間です。助手として，学生の皆さんがこの時間を有意義に送ることができるよう，サポートしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

杉山雅俊先生　はじめまして，2015年4月に教育発達学科に助手として着任しました杉山雅俊です。専門は理科教育学，教師教育学です。教師を志す学生の皆さんがどのようにして理科授業に関する力量を形成するのか，ということを中心に研究を行っています。理科には，自然事象との関わりという面だけではなく，課題を発見しそれを解決するためにアプローチしていく手続きを直接的に扱うという面にも魅力があります。教育発達学科では，いくつかの授業科目に補助として携わることになりますので，どうぞよろしくお願いいたします。

松村先生にインタビュー

丸山大輝･内田陽一･鈴木晴香（在学生部会SC）

2016年1月30日(土)、私たちは白金校舎で今年度で退職される松村先生にインタビューをしました。

―――「松村先生はなぜ心理学を学ぼうと思ったのですか？」
先生「僕が学生の頃はね、心理学は今のようにメジャーな学問ではなかったんだ。元々は教員になるつもりで教員養成の学部に通っていたんだけど、教育学部の中でも特に心理学に重点を置いた学科だったから、心理学に接したことが心理学を学ぼうと思ったきっかけだね。」
―――「ちょうど明学の教育発達学科のような学科だったのですね！」
先生「そうそう、そんなことから心理学に興味を持ったんだ。」
―――「その後、院に進んで大学の教授になられたとお聞きしましたが、小学校の教員としてお勤めになられたことはないのですか？」
先生「それがややこしくてね、実は教員免許は持っていないんです。免許をとる為の単位は取っていたんだけどねえ、院進学一本にして免許の申請はしなかったんです。よく言えば退路を断ったんだよ(笑)退路を断って、一年間浪人して必死で勉強したんだ。」

―――「先生はどのような大学生生活を送られていましたか？」
先生「学部時代は真面目じゃなかったな。大学生のうちになにをやっていたかと言うと、映画観て山登って本を読んでいました。そしたら終わっちゃったんだよ(笑)　深田久弥さんの日本百名山があるだろう？そのうち30くらい登ったんじゃないかな。南アルプスや北アルプスの名峰も登ったよ。それに、映画が好きでね、多い時には年間50本以上観ていたかな。あとは小説を読んでいたよ。大江健三郎の初期の頃からのファンでね。そんなことをやっていたから、心理学はやる暇がなかったんだよ。」
―――「趣味をたくさんお持ちでしたのですね、真面目ではなかったという先生の発言に驚きました！」
先生「院に進んでからは修士論文を書いたりするから、やっぱり真面目に勉強したんじゃないかな？山登りは大学生までだったね。」
―――「では、教授を引退なされた後はどのようにお過ごしになられるおつもりですか？」
先生「そうだねえ、心理学はもうやらないつもりでいるよ（半年だけやるけど）。」
―――「ええーっ！？」
先生「うん、心理学から離れて仲間とやっている同人雑誌の編集とそれへの執筆が生活の中心になるかな。それに学びなおしたいことが1つあって…ああ、こっちがメインかな。要するに、学生生活に戻るってことだね。」
―――「なんだかウキウキしているように見えますね！」

―――「先生の教訓から、学生生活のうちにやっておくべきことはずばりどんなことでしょうか？」
先生「僕が学生生活のうちにやっておくべきだったなあと思うことは、日本語の読み書きをきちんと学ぶということです。仕事柄、文章を書いたり様々な論文を読んでいるとね、やっぱり言葉は大切だなあと思います。僕自身一見できているようで本当は日本語をきちんと書けていないことを痛感するんだよ。」
―――「母国語をきちんと書けるようになるということは大切なことなんですね。」

―――「先生にとって、良い先生の条件とはなんでしょうか？」
先生「明学の講義では伝えられなかったんだけど、僕はずっと先生のことを勉強してきたんだよね。結論を言うと…特に答えはないんです。」
―――「と、言いますと？」
先生「なんだろうね、よく先生って児童理解が初めにあって、それに基づいて学級経営をしていくということがあるんだけど、つまり自分が児童をどう理解するかでしょ？児童理解は実は自己理解なんだよ。つまり、自分がどういう視点で児童を見ているかがわかっていることが大切だと思うんだ。それを少しでも理解しようとするかどうか、そういうことが出来ている人は良い先生だなと上手な先生の話を聞いていて思うようになりました。」

―――「現在の小学校教育における問題点とはどんなことでしょうか？」
先生「最近心配なことは、異動プロブレムというものです。元々力のある先生が、異動した先の学校で潰れてしまい、先生をやめてしまったり病んでしまったりしてしまう問題です。先生たち自身の教員集団の中で、上手に他の先生をサポートしたり認めたりしてお互いが育っていける環境にしていくことが必要だと思います。目先の結果よりも、教員同士がゆとりを持っていることも大事だと思います。」

―――「明学生へ向けてメッセージをお願いします。」
先生「明学生には、勉強やスポーツなどいろんなことにもっと貪欲になって欲しいと思います。みんな穏やかで素直だし、雰囲気が良いところは素敵だと思います。しかし、勉強への貪欲さがたりないかなあと思います。学生は学ぶことが商売だからね、貪欲に行こう！そして、これから仕事に就くみんなに伝えたいことは、就いた仕事を好きになる努力をしようということです。好きなことは仕事ではなく、趣味だと思っています。どうやったら就いた仕事を好きになれるか考えて工夫していくことが大切だよ。頑張ってください。」

《インタビューを終えて》
「どんなこと知りたい？」「聞き漏らしたことがあればなんでも言って？」など松村先生らしい優しい言葉をかけて下さり、とても穏やかな雰囲気の中でインタビューを行うことが出来ました。また、授業では聞けない意外な一面もお聞きすることが出来ました。短い時間でしたが、とても貴重な時間となりました。松村先生、本当にありがとうございました。

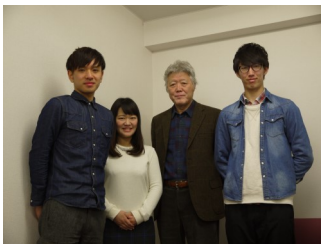
インタビューのようす

なごやかな雰囲気ではじまったインタビュー

終始にこやかに話される松村先生

テンポのよい先生の話に引き込まれます

集合写真



（左から）
内田　陽一さん
鈴木　晴香さん
松村　茂治先生
丸山　大輝さん

ホームページにはこんなことも載っています

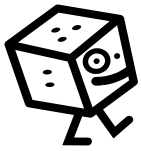
●会報「さいころ」のデジタル版

過去に発行された「さいころ」をホームページで見ることができます。

意外な同級生が紙面に登場しているのを発見することがあるかも･･･？

●ゼミ情報紹介

心理学科、教育発達学科、両学科の全ゼミについて、ゼミ生が紹介した内容が掲載されています。過去6年分掲載されているので、卒業生の方が自分の所属していたゼミの今の姿を見てみるのもおもしろいかもしれません。



白金心理学会
イメージキャラクター
「さいころくん」

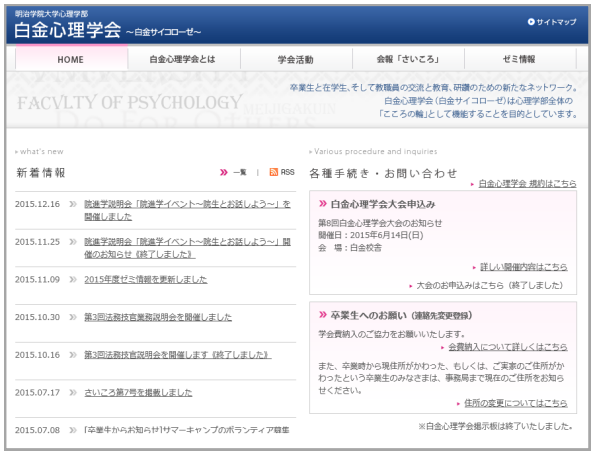
発行：
明治学院大学心理学部
白金心理学会 事務局

〒108－8636
東京都港区白金台1－2－37
明治学院大学11号館302号室

TEL＆FAX:
03(5421)5814
問い合わせ用E-mail：
shinro@psy.meijigakuin.ac.jp

白金心理学会第9回大会参加申し込み及び住所変更は下記URLまで
URL：http://psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/

白金心理学会ホームページのご紹介



白金心理学会ホームページ

白金心理学会のホームページがあることは、皆様ご存知でしょうか。

在学生、卒業生に向けた情報を随時発信しています。

「学生部会(ＳＣ)主催のイベントのお知らせ」は主に在学生向けとなっていますが、「研究奨励事業に関するお知らせ」、「白金心理学会大会のお知らせ」などは、卒業生の皆様も是非ご覧ください。

また、卒業生の皆様から在学生にむけて発信したい内容（※）などございましたら、メールにてお知らせいただければ、白金心理学会ホームページに掲載いたします。問い合わせ用E-mail宛てに、是非お知らせください。

※心理学に関係する資格や仕事内容の紹介、イベントの紹介など

【白金心理学会ホームページのアクセス方法】
・検索サイトで「白金心理学会」と検索
・ブラウザにＵＲＬを入力→　http://psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/
・右のＱＲコードを読み取る

事務局よりお知らせ

○白金心理学会第9回大会のご案内

来る2016年6月25日（土）13：00から白金校舎において「白金心理学会第９回大会」を開催いたします。当日は懇親会もございますので、同期の仲間や後輩たちに会ういい機会になれば幸いです。皆様お誘いあわせの上ご参加下さい。（大会・懇親会共に当日参加も可能ですが、資料、料理の手配の関係上、白金心理学会ホームページからの事前申し込みにご協力ください。なお、懇親会のみ有料です。）

○教員からのお知らせ

2016年3月、松村茂治先生（教育発達学科教授）、溝川藍先生（教育発達学科助教）が退職されました。

また、岡田和久先生（心理学科准教授）は日本大学文理学部心理学科に異動されました。

今年度のサバティカルは阿部裕先生と市川珠理先生と田中知恵先生です。今年度は出校されませんので、ご注意下さい。

○卒業生のみなさまへ　白金心理学会にご入会下さい！

すでに心理学部および心理学研究科の皆様には入学・進学時にリーフレットを配布しご案内しておりますが、在学期間中は学会費として一人年間2000円をお預かりしております。

卒業生の皆様におかれましても、この機会に是非ご入会下さいますようお願いいたします。

お預かりした会費は、次のような活動の費用に充てられます。

①心理学部（前身諸学科含む）卒業・修了生、教員、在学・在院生、との交流会の企画および運営
②在学・在院生、卒業・修了生のキャリア支援のためのイベント企画及び運営
③心理学部（前身諸学科含む）、心理学研究科名簿管理
④年次大会・総会開催、会報発行、講演会企画及び運営
⑤白金心理学会に関わる広報活動

ご不明な点は、白金心理学会事務局までご連絡ください。皆様のご入会をお待ちしております。

○卒業後の住所変更登録にご協力下さい！

卒業時から住所が変わっている方、また、ご実家の住所が変わっている方は、白金心理学会事務局にご一報ください。住所変更登録は白金心理学会ホームページ「卒業生へのお願い（連絡先変更登録）」ページで登録できます。ご協力をよろしくお願いいたします。